

ゼミナール紹介

担当者名	新井立夫							
e-mail アドレス	tatsuo@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3301							
在室曜日・時限	月：3、18:10～ 水：3、4、18:10～ 木：2、5、18:10～ 金：18:10～							
個別説明会（日時・場所）								
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	○	○	○	○	○
	場所	1407 教室	1407 教室	1407 教室	1407 教室	1407 教室	1407 教室	1407 教室
2017 年度担当科目	基礎簿記演習、キャリア形成基礎、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱ、総合演習、教育実習B（高校）、教育実地研究、教職実践演習、キャリア・職業指導、インターンシップ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、卒業研究、公共経営実地演習							
選抜方法	面接							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミナールは、キャリア教育（進路指導含む）及びキャリアカウンセリングの必要性を認識し、企業の人材育成の仕事に従事したい者、公務員を目指す者や教職に就くことを目標とする者、あるいは、将来「キャリア・デベロップメント・アドバイザー」などの取得を目指す学生に履修してほしい。</p> <p>学習は、キャリア教育の意義、必要性を理解することから始まり、キャリアカウンセリングの理論や演習を通し、キャリアコンサルティング、キャリアアドバイザーなど「他人のキャリアを支援する」専門職に就ける人材育成とともに、「自分のキャリアを見つめなおしたい」という目的などを体験的に学び、キャリアビジョンを描き、意図的に行動し、実践できるようになることが、到達目標である。また、必要に応じて研究発表会、ゼミ遠征、自主的な勉強会を実施するものとする。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	石田 晴美							
e-mail アドレス	ishida@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3413 研究室							
在室曜日・時限	水曜昼休み、金曜昼休み							
個別説明会（日時・場所）	実施予定なし							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	○	○	○	○	○
	場所	1306	1306	1306	1306	1306	1306	1306
2018 年度担当科目	基礎簿記演習、財務会計論、財務諸表分析演習、公会計、行政評価							
選抜方法	定員を超えた場合は、面接により選抜する。							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミは「財務会計」をテーマに、現在の会計基準の在り方や今後の動向を明らかにすることを学修の目的とする。</p> <p>「財務会計」から教員が選んだテーマについて隔週で学生が発表を行う。各テーマでは、基本書・参考書の他、各種会計基準等の原本に必ず触れることを心がけている。</p> <p>また、日経新聞を読む力を身につけることおよび、プレゼンテーションのスキル向上を目的に、隔週で日経新聞 1 面トップ記事について各自が選んだ記事に関する 1 分間プレゼンテーションを実施している。</p> <p>ゼミ在籍中に日商簿記 3 級試験に合格することがゼミ生に課せられる最低限の課題である。ゼミナールへの参加、授業への取り組み、課題の提出、日商簿記 3 級の資格取得等により評価する。無断欠席は認めない。</p> <p>ゼミは、学生自らが調べ考え、発表する場であることを肝に銘じること。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名		石塚 浩						
e-mail アドレス		ishizuka@shonan.bunkyo.ac.jp						
研究室		3314 研究室						
在室曜日・時限		火 3 4、水 5、金 3 4						
個別説明会（日時・場所）								
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	○	×	○	○	○
	場所	4203	4203	4203		4203	4203	4203
2018 年度担当科目		経営戦略論 経営組織論 組織デザイン論、組織行動論						
選抜方法		成績 提出書類 面接 (選抜に関わる連絡を学籍番号メールで行う)						
ゼミナール紹介		<p>ゼミナールⅠでは、企業の戦略行動の基礎にある論理を探ることを通して、具体的な経営戦略について考えていく。最初はテキストを読み進めながら、経営戦略の基本的な概念を理解し、それをベースに現実の企業の事例研究に取り組む。ゼミナールⅡでは基礎的な理解が備わったところで事例研究をさらに深めていく。各事例における多様な経営問題を考えることで、理解力と思考力を養う。問題解決に求められる能力の獲得が、ゼミナールⅠとⅡを通した達成目標である。</p> <p>毎回の基本的なゼミの進め方は、事前に配布された資料をもとに報告者 2 名が内容を報告する。報告に対する質疑応答のあとで、グループワークを行う。自ら思考し自ら主張すること、チームで議論し結論を導くことを重視する。</p> <p>卒業研究ではゼミナールで学んだことをベースに、各自の興味と関心を出発点にして卒業論文を作成してもらおう。なお本研究室では、所属学生の全員に卒論作成を求める。</p>						

ゼミナール紹介

担当者名	金 必中(キム ピルチュン)							
e-mail アドレス	pjkim@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	5403							
在室曜日・時限	月・2、 木・2 & 4							
個別説明会（日時・場所）	10月3日(水) 13:30~14:30 ・ 5403 室 10月4日(木) & 11日(木) & 22日(月) 12:30~13:00 ・ 5403 室 11月1日(木) 12:30~13:00 & 16:40~17:30 ・ 5403 室 11月5日(月) 12:30~13:00 & 16:40~17:30 ・ 5403 室							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	○	×	○	○	×	×
	場所		4302		4302	4302		
2018 年度担当科目	マーケティング、マーケティング戦略、マーケティング戦略事例研究、マーケティング・リサーチ、マーケティング・リサーチ演習、流通論、知の探究、国際地域論 A							
選抜方法	書類選考と面接							
ゼミナール紹介	<p>金ゼミは、マーケティングと流通に関して詳しく勉強するゼミである。さまざまな事例研究とグループ研究調査活動を通じて、企業のマーケティング活動について幅広く理解するとともに、それに関連する諸問題について研究と調査を行い、マーケティング戦略の実践的専門的な知識やノウハウを習得することを、目的としている。</p> <p>ゼミは、3 年生では、文献研究・事例研究・学外見学と小グループ活動を通じて、資料を作成・発表し質疑応答する形で進めていく。テーマは、ゼミ参加学生の関心分野を中心に選定する。ゼミの時間では実践的知識と調査分析手法を習得しながら、質疑応答を通じて、各自の問題解決能力やプレゼンテーション能力を高めて、ゼミ全体のレベル・アップを図る。</p> <p>なお、4 年生では、各自自分の問題意識を極めながら興味深いテーマを選定し、卒業論文としてまとめていく。2018 年度は、学園祭に出店し実際のマーケティング戦略について疑似体験する予定である。</p> <p>マーケティング研究は人間の研究でもあり、ゼミの活動や成果はゼミ生のリレーションシップとチームワークが何より大切である。したがって、金ゼミは、やる気と誠実さ、マーケティング研究に強い興味や関心をもち、真面目に学問探求に取り組む意思と姿勢をもっている学生の参加を求める。そして、多様なゼミ活動やゼミ合宿などの際には、原則全員参加とする。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	志 村 正							
e-mail アドレス	shimura@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	5 4 0 2							
在室曜日・時限	月 (隔週), 火、水、金							
個別説明会 (日時・場所)	特に設定しない。希望により随時、研究室で行う。							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	×	×	○	○	○	○
	場所				4403	4403	4403	4403
2018 年度担当科目	『基礎簿記演習』『企業会計』『原価計算Ⅰ』『管理会計論』『アカウンティング演習A』『アカウンティング演習B』『ゼミナールⅠ・Ⅱ』『管理会計情報特論』 (大学院)							
選抜方法	定員を超えた場合には、GPA, 面接, 希望理由を勘案して決定する。							
ゼミナール紹介	<p>会計には2つの分野がある。財務会計と管理会計である。本ゼミでは管理会計がテーマである。</p> <p>管理会計は経営 (マネジメント) に役立つ会計である。会計をどのように用いれば業績を改善できるか、利益を向上させることができるのかを考えていく。業績は一般には利益の大きさによって判断されるが、利益を上げるためには、売上の増加、コスト・ダウン、資源の効率的利用が不可欠となる。どこにコストを削減する余地があるのか、どこに利益を増大させるヒントが隠されているのかを発見する方法と技法を学んでいく。管理会計は会計を前向きに活用し、お金をどうすれば増やせるかを考えていきます。会計の経営的活用アイデアと思考方法を身に着けることが学習の目標となる。</p> <p>主なテーマは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損益分岐点分析による利益計画の策定 ・ROE、ROA、EVA などの会計指標の特徴 ・事業部制の業績評価 ・バランスト・スコアカード ・予算管理 ・意思決定問題 など <p>ゼミ見学会のご案内は次のサイトをご覧ください。 http://www.bunkyo.ac.jp/~shimura/zemipage.htm</p> <p>プロフィールも研究室ホームページに掲載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定を初め、FP 技能士検定、IT パスポートなどの資格を目指す人を歓迎します。 ・会計に関心があり、本当に勉強したい人を望みます。 ・4 年次に『ゼミナールⅡ』を必ず履修すること。できるだけ『卒業論文』を修得してほしいと思います。 ・『原価計算』を履修しておくとう理解しやすいと思います。 							

ゼミナール紹介

担当者名	鈴木 誠							
e-mail アドレス	mcsuzuki@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	6号館 6211研究室							
在室曜日・時限	火曜1・2、水曜1・2・3 木曜1・2							
個別説明会（日時・場所）	特定の日は設けません。水曜の昼休みに研究室に来てください。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	○	○	○	×	○	×
	場所		6107	6107	6107		6107	
2018年度担当科目	市場と企業の経済学（ミクロ経済学）、ファイナンス、コーポレートファイナンスとコーポレートガバナンス、起業論、国際地域論（B）など							
選抜方法	やる気、英語能力、GPAの3項目を総合し、上位より採用します。							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミナールは、では3つの能力開発を行うことを目的としています。</p> <p>第1に金融に関する能力を英語で養うことです。今後、英語能力はこれまで以上に必要になってきますが、十分な実践的な力が不足している学生が少なくありません。英語のファイナンスのテキストを輪読することで、ファイナンスの知識と英語の力をつけることを目的としています。毎週、全員が1ページを担当することになります。ファイナンスの力を一定水準に確保することができた学生は、夏休みに金融機関へのサマーインターンに推薦します。推薦を受ける場合、授業の出席、理解度、社会人としてのマナーの3点を評価し、一定水準を満たした場合、金融機関に推薦します。第2は地方経済との連携を実践します。山形県最上町でゼミ生は全員1週間の合宿を行い、その間に現地の農業を体験します。また、地元の人たちとの交流を行い、地域経済を知ることや、農業を知るとはとても重要なことです。日本の経済が東京を中心とした大都市圏でのみ成立しているわけではないことを肌で感じることを目的です。第3には就職を目的とした各種の対応を行います。具体的にはSPI3への対策です。基本的には各自で学んでもらうこととなりますが、ゼミにおいて、達成度をチェックします。就職対策は4年から始めるのでは遅すぎるので、本ゼミでは3年時からしっかりと対策を行います。また、多くの学生は論述が非常に苦手です。試験の論述、卒業論文だけでなく、就活におけるエントリーシートへの記入もすべて論述力が重要となります。論述力を客観的に評価し、高める対応をします。</p> <p>以上のように、本ゼミナールはゼミ生のやるべきことが沢山あります。飲み会などのゼミと無関係なことは極力行いません。どちらかといえば、厳しく自己を律し、自らの目標に向かって、すべきことを達成できる学生を求めます。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	根本 俊男							
e-mail アドレス	nemoto@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3209 研究室							
在室曜日・時限	水曜日, 金曜日 9時から 16時ごろ							
個別説明会 (日時・場所)	特に説明会は実施しません. 水曜日 1・2 時限目に実施しているゼミ見学を推奨. ゼミを実施している 3211 教室は外から中の様子がうかがえませんが, 勇気を出して 3211 教室のドアをノックし覗いてみよう. 別時間で個別相談も可.							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	×	○	○	×	○	○
	場所			3211	3211		3211	3211
2018 年度担当科目	スケジューリング, ネットワークモデル分析, 最適化モデル分析, 問題解決技法演習							
選抜方法	春学期「スケジューリング」の成績, 授業参加状況を基に, 秋学期「ネットワークモデル分析」の授業参加(成績)状況も勘案し, 選抜します.							
ゼミナール紹介	<p>現代社会で重要な能力として広く認知され希求されている「問題解決力を有した人材」を育てるゼミナールです. ゼミナールで用いる主な道具は, 2 年次に学んだ(学んでいる)「ネットワークモデル分析」や「スケジューリング」といった経営科学分野の講義を通じて習得した科学的なツール群です. これらの問題解決手法の理解をさらに深め, それらを総合的に結び付け社会で生じる問題解決に利活用できる能力習得を到達目標とします.</p> <p>このように書くと, 机やパソコンに向かって理論を学んだり考えたりするようにイメージされます. しかし, 問題解決の総合力は実践を伴い涵養されます. 手と頭の両方を実際に動かし, 現場を見に学外にも出て, 様々な問題解決の実践を通じて問題解決力を養います.</p> <p>具体的には, 3 年次前半では主に問題解決手法に関する専門書に沿い各自が発表し, メンバー間での議論を通じて問題解決に必要な基礎知識や基礎ツールの使い方の補強を行います. あわせて, 物事の見方の図解法, 他者とのコミュニケーション手法, より分かりやすく考えを伝えるプレゼンテーションのコツ, 資料作成方法, 社会人基礎力のトレーニングも行います. 夏休みには, 全員参加で夏合宿を行います. 3 年次後半では, より実践的な実習で理解を深めます. 政策コンテストやビジネスモデルコンテストへチャレンジするゼミ生も多くいます. 4 年次には, 各人が設定したテーマの下で卒業研究に取り組み, 大学 4 年間の学びの集大成となる研究論文を作成してください.</p> <p>新しいことにチャレンジしたり考えたりするのが嫌いではないけど, 何をどうすればよいのか分からなかったり, 時間やお金がなかったりで, 結果的に今まではあまりアクティブではなかった. でも, ゼミナールでは自分で取り組んだと実感できる創造的な活動をやって卒業したいとの願望をしっかりと持っている方に向いているゼミナールです.</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	幡鎌 博							
e-mail アドレス	hatakama@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3307							
在室曜日・時限	月曜4限、木曜4限（火曜も大学に来ている日が多いです）							
個別説明会（日時・場所）	個別説明会はしません。ゼミ見学の前後や研究室訪問時に質問等をしてください。なお、10/10は4年生の卒業研究/レポート概要発表会で10:40頃開始。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	○2限	○2限	○2限	○2限	×	×
	場所		1404	1404	1404	1404		
2018年度担当科目	情報化戦略、人間尊重と経営、e-ビジネス、ビジネスモデル設計演習、情報技術演習A/B、ビジネスソリューション演習、知の探究							
選抜方法	主に取得済みの単位数とゼミを選んだ理由（面接で聞きます）から総合的に評価します。							
ゼミナール紹介	<p>このゼミでは、経営に関する内容を、事例研究や輪読などを通して学びます。3年の春学期はまず、外部の研究コンペ募集（基本的には、神奈川産学チャレンジプログラム）への応募に向けて、企画/調査や問題解決の手法などを学習します。そして、チームを組み、全員が研究コンペに参加してもらいます。そして、ゼミの時間も使って検討して、提出するレポートや発表スライドを作ります。神奈川産学チャレンジプログラムでは、実務界の企業の実際の課題を入手して提案を検討し、コンペ形式で他大学のチームと競います。まず、先方企業から課題のオリエンをしてもらい、その課題解決にチームで取り組みます。レポート完成後には、その企業の人達の前でプレゼンテーションを行います。つまり、提案型営業を行う際の企画書のようなレポートを作って提案するという演習ができます（インターンシップでもなかなかできない経験ができます。）</p> <p>その後は、経営戦略/ビジネスモデル・戦略組織/人的資源管理・情報戦略に関する文献を輪読したり、各自、特定の企業を深く調査して事例分析を行い、ゼミで議論を行う予定です。その他、簡単なビジネスゲームやディベートなども行う予定です。</p> <p>3年の秋学期は、幡鎌の科目「e-ビジネス」と「ビジネスモデル設計演習」をなるべく履修してもらい、ゼミの中でもそれらの内容を取り上げる予定です。</p> <p>また、3年生の夏休みは、何らかの目的（資格勉強、インターンシップなど）を持って過ごしてもらいたいです。なお、3年の秋学期には、ゼミの学習以外に、就活に役立つように、業界研究を行ったり経済新聞や業界雑誌なども読む時間を設けます。4年のゼミでは、ゼミ生全員で国会図書館に行き、資料検索について学びます。なお、ゼミ合宿や学外の施設見学（2013年は森永製菓鶴見工場、2014年は日産追浜工場、2015年はヤマト運輸の羽田クロノゲート、2017年は花王小田原工場）もできれば行きたいです。</p> <p>これらのゼミ内容を通して、経営の問題を総合的にとらえて理解し、自ら取り組む姿勢を身につけるようになることを到達目標としています。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	堀田 敬介							
e-mail アドレス	khotta@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3304							
在室曜日・時限	2018 年度秋学期オフィスアワーは火曜昼. 出校曜日は火水金. 授業時間は堀田研究室 Web サイトの授業概要で確認可. 出張等なければ月・木も在室. 相談したい時など, 事前にアポは必要なく, 直接研究室を訪ねてよい							
個別説明会 (日時・場所)	単独の説明会を行わない. 研究室在室で急用時でない時はいつでも相談可							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	×	×	○	○	×	×
	場所	-	-	-	5201	5201	-	-
2018 年度担当科目	「意思決定科学」「問題解決技法入門」「問題発見技法」「データ処理Ⅱ」「英語文献研究」「知の探究」他							
選抜方法	「問題解決技法入門」を履修済か履修中であること. 定員を超えた場合, 「問題発見技法」「データ処理Ⅱ」履修済の学生を優先. 履修済学生で順位付けが必要になった場合は上記 2 科目の良い成績 1 科目で決定. 面談等は実施しない							
ゼミナール紹介	<p>社会や組織・企業など, 個人や集団が活動する中には解決をした方がよい事象が潜んでいる. より良い活動や組織運営のためには, それらの問題を発見して定義し, 改善のために適切なモデル化を行い, 上手く解き, 得られた解を評価し, 解決策を提示する, という一連の意思決定過程 (即ち, 問題発見と問題解決) を要する. ゼミでは, 1, 2 年次に得た基礎知識を再確認し, この問題発見・問題解決の勉強に取り組む. これらを, 互いの考えをぶつけあう議論や演習を通して身につける.</p> <p>大学の勉強は, 自主的・積極的に学ぶ姿勢が問われる. 自主的に学ばなければ何も身につかない. 身につかない知識・技術は役に立たないし, 自身で使えない. 使える状態になれたかどうかは, 他人に教えられるかどうかで自己判断できる. 他人にあやふやにしか伝えられないのであれば, 理解が甘いということであり, 理解が甘ければ役に立たない. 受動的であった授業と異なり, ゼミでは能動的・自主的に動くことを期待する.</p> <p>問題発見・問題解決の対象としてゼミで具体的にどんな分野の勉強をするかや学ぶテーマは, 学生毎に興味と関心を聞き, 教員と学生とが相談して決める. また, 進め方は本の輪読や実際問題の発見から解決までの実践をやってみるなどがあるが, どう実施するかについても教員と学生とが相談して決める.</p> <p>ゼミの到達目標は, 各自の思い定めた勉強について, 自身で到達目標を定め, そのレベルまで理解できたと思えるまで自主的・積極的に勉強し, それを自分で確信できることである (誰か他人に, 自分がどのレベルまで理解できたかを評価してもらうのではなく, 自分で自分を評価できるようになること).</p> <p>ゼミ所属後は, 関連する授業として, 未修得であれば「データ処理Ⅱ (2/3 セメ)」「問題発見技法 (3 セメ)」と「意思決定科学 (6 セメ)」を必ず履修することを課す.</p>							

ゼミナール紹介

担当者名		森 一将						
e-mail アドレス		morik@shonan.bunkyo.ac.jp						
研究室		3404						
在室曜日・時限		相談は随時受ける。メールでアポイントメントをとること						
個別説明会（日時・場所）		相談は随時受ける。メールでアポイントメントをとること						
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否		○	○	○	○	○	
	場所		6206	6206	6206	6206	6206	
2018 年度担当科目		統計の見方、統計データの扱い方、経済データ分析、多変量のデータ解析						
選抜方法		定員を超えた場合はエッセイ（データ分析の合理性に関する論述）と面接により選抜を行う。						
ゼミナール紹介		<p>本ゼミでは、マーケティングなどの経営データ分析の基本的な理論体系の習得と分析結果に関する論述力をつけるためのトレーニングを行います。このため、前期と後期に分けて以下のような課題を行います。</p> <p>【前期】 基礎力の養成の時期です。データ分析やその応用に関する本のうちから 1 冊を選び、重要事項を輪読形式で発表してもらいます。必要な数学的知識は教員から補足します。数学に苦手意識を持つ方も、必要な知識は最小限にしますので思い切って参加してください。</p> <p>【後期】 基礎力の養成をつづけながら応用演習を行います。マーケティング分析に関する専門書を 1 冊選び、重要事項を輪読形式で発表してもらいます。また機材等の都合が合った場合は実際に P O S などの実データを分析し、結果をプレゼンテーションしてもらいます。この場合も、必要となる知識等は教員から補足があります。</p> <p>このゼミでは、参加と行動（課題の実施や発表）が最重要視されます。数学的知識については、高校の数 I 程度があればかまいません。教員のモットーは「習うより慣れよ」です。最初はわからない課題も繰り返すことにより理解し、使いこなせるようになります。まずは、みなさんの積極的な参加を期待します。</p> <p>注意：このゼミは無断欠席、遅刻は厳禁となります。無断欠席、遅刻をした学生には警告を与えたうえで単位を不認定にする場合があります。履修の際に十分に注意してください。</p>						

ゼミナール紹介

担当者名		山崎 佳孝						
e-mail アドレス		yyama@shonan.bunkyo.ac.jp						
研究室		3303						
在室曜日・時限		火曜日、水曜日、金曜日 4限、5限						
個別説明会（日時・場所）		予約制（個別に対応）						
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	×	○	○	○	×	×	×
	場所		4402	4402	4402			
2018年度担当科目		人的資源管理論、人材開発論、経営組織論、経営学特論（異文化マネジメント） キャリア開発研究、知ナビ、アカデミックリテラシー、ゼミ I & II						
選抜方法		申請書、成績、面接（面接は必要に応じて実施することもある）						
ゼミナール紹介		<p>山崎ゼミでは、グローバリゼーション、グローバル人事、海外人材開発、外資系企業について議論します。その目的は2つあります。1つ目は、近年、急速に進むグローバリゼーションを鑑み、異文化経営環境下でより優れたパフォーマンスを発揮するために何が必要かを考え、議論します。2つ目は、ゼミ生・自身の自己開発にあります。特に、日本を含めて、グローバルで活躍するためには、（1）自分自身の考えをまとめてプレゼンできること、（2）グループ活動ができること、（3）英語や他国の文化に興味があることが考えられます。授業ではグローバルや異文化マネジメントに関連した文献を扱います。さらに、課外授業や合宿などを取り入れた、経験学習型授業を行います。自己開発に関連しては、アウトプットを重視し、プレゼンテーション・スキル、チームマネジメント・スキル、レポート作成・スキルが使えるように設計されています。グローバリゼーションに対応して英語力向上への意識づけを行います。英語のレベルは問いません。興味があることが大切です。2018年度は5月に異文化コミュニケーション体験授業（外国人講師）、6月に御殿場アウトレットモール課外授業、7月に日本企業と外国企業の比較（外国人講師）、9月にブリティッシュヒルズで英国文化理解と英語力向上を目的としたゼミ合宿を行いました。秋学期は日本人と外国人講師を招いて、日本企業の現状についての講演とアドバンスト異文化コミュニケーションの授業を行う予定です。山崎ゼミの特徴はインプット学習（情報収集・取り入れ）だけでなく、特にアウトプット学習（自分から情報を発信すること）に焦点をあて、知識の習得とスキルの向上を目指しています。</p>						

ゼミナール紹介

担当者名	山本顕一郎							
e-mail アドレス	yamamoto@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	3412 研究室 (3 号館 4 階)							
在室曜日・時限	木曜 4 時限目 (オフィスアワー)、その他月曜 2 時限目の前後など							
個別説明会 (日時・場所)	実施しません (詳細を聞きたい人は、直接研究室へお越しください)							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	○	○	○	○	○
	場所	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
2018 年度担当科目	ビジネスと法 A、ビジネスと法 B、ビジネスと法 C、その他							
選抜方法	定員を超えて応募があった場合には、選抜を行う。方法と基準は、法律系科目の単位取得状況と成績、その他の科目の成績を勘案し、また面接を行って、総合的に判断する。(なお、当ゼミに応募するためには、「ビジネスと法 B」の単位取得が必須となる [履修中の者も可; ただし出席状況が著しく良くない場合は不可].)							
ゼミナール紹介	<p>このゼミは、法律を学習していくことを目的とする。</p> <p>統一テーマを「IT・情報ネットワークと法」とする。このテーマのもとで、近年生じているさまざまな法律問題を取り上げて考察していく。たとえば、ネット上の著作権、個人情報保護、名誉棄損、プロバイダー責任、電子商取引、等々である。これらを追究していく際には、民法・商法・会社法・知的財産法・憲法・行政法規などの一般的な法律の知識も必要になってくるであろう。結果として、IT・情報ネットワークに関する知識のみならず、一般的な法律の基礎知識や考え方もひろく修得していくことになる。</p> <p>ゼミでは、まず基本的な文献を読み、また実際の事件や判決を取り上げて分析したり、各種検定試験の問題を解いたりしていく。ゼミ受講生の報告が中心となる。受講生がある程度の法律知識を持っていることを前提として、基本的な事項に加えて応用的かつ詳細なことがらについて、全員で追究していき理解を深めていく。</p> <p>ゼミを安易に欠席することは許されない。ゼミにおいては、事前に割り当てられた事項について必要十分な調査を行った上で報告を行うことが求められる。また積極的に質問を行って議論に参加することが必要となる。</p> <p>テキストは後日提示する。また六法を必ず携行し折に触れて参照すること。</p> <p>知的好奇心が旺盛で、法律を真摯に学ぼうとする者を歓迎する。当ゼミでは、ビジネス実務法務検定試験等の資格試験を受験し合格することを推奨している。また公務員を志望する者にも受講してもらいたい。上のような努力や受験・合格実績は、ゼミの成績評価に大幅に加味する。</p> <p>このゼミを履修するためには、「ビジネスと法 A」「ビジネスと法 B」も含めた法律系科目を履修・単位取得しておくことを、強く勧める。また、3 年次には「労働法」「行政法」「ビジネスと法 C」も積極的に履修すること。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	浅川 雅美							
e-mail アドレス	asamasa@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	1316							
在室曜日・時限	火曜日 4時間目 木曜日 2時間目							
個別説明会（日時・場所）	事前に、メールをいただければ、個別に対応致します。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	×	×	×	○	○
	場所	1202	1202				1202	1202
2018 年度担当科目	消費者行動論（経営学部、情報学部、健康栄養学部） 生活と広告、統計学、個人と社会							
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。							
ゼミナール紹介	<p>前期は、後期に実施する調査のテーマを決めるために、実際の学术论文を検索して、読んで、その内容を発表してもらいます。そして、後期に向けて、研究テーマを決定します。</p> <p>後期は、個人単位で、前期に決めたテーマで、調査を実施してもらいます。具体的な進め方は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査票を作成する 調査実施 データを入力する データを集計する プレゼンテーション レポート提出 							

ゼミナール紹介

担当者名	青木 勝一							
e-mail アドレス	masa@shonan.bunkyo.ac.jp							
研究室	6210							
在室曜日・時限	火曜 2限 水曜 1限 木曜 2、3限 金曜 2限							
個別説明会（日時・場所）	<ul style="list-style-type: none"> ・10月10日（水）2限終了後 図書館1F ラーニングスクエア ・10月31日（水）2限終了後 図書館1F ラーニングスクエア（10/23 追記） 							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	○	○	×	○	○	○	○
	場所	図書館 1F ラーニン グスクエア	図書館 1F ラーニン グスクエア		図書館 1F ラーニン グスクエア	図書館 1F ラーニン グスクエア	図書館 1F ラーニン グスクエア	図書館 1F ラーニン グスクエア
2018年度担当科目	公共経営入門、公共経営論、地域経営論、非営利組織論、経営学特論B、知の探究、アカデミック・リテラシー、ゼミナール I							
選抜方法	成績、希望調書、場合により面接を実施							
ゼミナール紹介	<p>公共政策は、かつて行政組織が担うと考えられていたが、今では市民団体やNPO など「新しい公共」へとその担い手が広がり、市民一人ひとりが能動的に社会的課題を考えていく時代へと変容を遂げている。本ゼミではこの現状を踏まえ、学生が公共分野の課題に対して市民の一人として社会的課題をとらえ、考える能力を身につけることを目的とする。したがって、公務員志望者だけでなく公共的・社会的課題に関心を持つ学生の参加を予定している。</p> <p>テーマは公共政策に関わる地域的課題である。3年生は各自の関心に基づき幅広いテーマを扱い、4年生は卒業論文のテーマに絞ることを基本とするが、具体的なテーマは参加者の関心に基づき開講時に決める。</p> <p>ゼミの進め方は各自が決めたテーマ（まちづくり、地域振興、福祉政策など）について、1回につき1人（あるいはグループ）で調査報告を行う。報告後の残り時間は、報告に基づくゼミ生同士でのディスカッションに充てる。</p> <p>これまでに公共経営論の授業を履修しているかどうかは問わない。選んだテーマについて、「何が問題か」という点をじっくりと考えて報告してもらいたい。他の学問分野同様、公共経営・公共政策では、制度、統計、実務現場での現状、利害関係者の関係などをよく吟味したうえで課題をとらえなければならない。ゼミでの報告でもこれらを踏まえた報告を期待する。</p> <p>また、そうして設定した課題に対する解決策も報告してもらおうが、ゼミではこの解決策について参加学生同士での活発に議論してほしい。最終的な解決策は何か一つ選択しなければならないが、その際、最適解は一つではないという前提で様々な解決案を比較考量する考え方を身に付けてもらいたい。</p> <p>公務員はもとより、公共経営に何らかの形で携わる場合、こうした思考方法の習得が必ず役に立つはずである。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名		櫻井 宏明						
e-mail アドレス		hsakurai@shonan.bunkyo.ac.jp						
研究室		6217						
在室曜日・時限		月曜 5 限、木曜 16:30～17:30						
個別説明会（日時・場所）								
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	10/3	10/10	10/24	10/31	11/7	11/21	12/5
	可否	可	可	可	可	可	可	可
	場所	6102	6102	6102	6102	6102	6102	6102
2018 年度担当科目		経済学の基礎、マクロ経済学、公共経済入門、経済学入門、公共思想論 知の探究、日本経済論、公共経済学、アカデミックリテラシー						
選抜方法		希望者が定員を超えた場合、面接による。						
ゼミナール紹介		<p>1. ゼミナール概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期は洋書の輪読を行う。これにより、英語による効率のよい情報収集の方法を学ぶ。 ・6月中旬をめぐり、各自の関心分野に関するレポートを提出する。このレポートをもとに、春学期最終回までに夏休み中に読むべき論文の一部を手交する。 ・夏休み中にさらに各自関心の深い分野に関する論文（先行研究）を集め、レポートにとりまとめる。 ・秋学期には当該レポートを発表する。議論として出た内容をもとにさらに先行研究を収集し、もう一度レポートを作成、再度発表する。 <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋書に慣れること。英語は知識を得るための手段であると同時に、翻訳は学術的な付加価値を有する。 ・文献調査に慣れること。各種企画立案に際して海外を含めた他の事例、経済学的考え方の会得は大いに参考になる。 ・発表に慣れること。他人に理解してもらえるように背景事情なども含めてわかりやすく説明すること。 						